

8.

スペイン風邪

▶ どんな病気？

スペイン風邪の流行当時は病原体が解明できていませんでしたが、現在では「A型インフルエンザ(H1N1亜型)」だと判明しています。

水鳥や渡り鳥が放出した糞にはインフルエンザウイルスが含まれるため、水辺に放たれたウイルスは水鳥や渡り鳥に広がり、そこから家畜として飼っている鳥類や豚などに感染します。そして、動物種の間での感染で変異を繰り返しながら、人に感染しやすいウイルスとなってインフルエンザの流行を引き起こしています。

▶ どんな影響？

スペイン風邪のパンデミック(世界的大流行)

■1918年～

スペイン風邪は、世界中で感染が確認されました。感染者数は5億人以上、死者数は2000万人とも4000万人ともいわれています。

当時はアメリカ兵の間で流行しはじめ、第一次世界大戦のためヨーロッパに派遣されると、戦線などで感染が広がりました。このパンデミックによって、ドイツ・アメリカ両陣営共に戦争の数倍の犠牲者を出し、休戦条約が結ばれ、大戦の終結が早まったといわれています。

日本でもこのスペイン風邪が流行し、感染者数は約2500万人、死者は約38万人といわれています。

スペイン風邪の病原が細菌ではなくウイルスであることが確認されたのは1933年で、鳥インフルエンザに由来するH1N1亜型であることが判明したのは1997年のことでした。

参考:平成16年版厚生労働白書(厚生労働省)

インフルエンザのパンデミック

■1957～1958年

香港から世界各地に感染が広がりました。日本では1957年5月には小学校で集団発生があり、1958年の春先に収束しました。

■1968年～

香港から東南アジア全域に広がり、日本でも感染が確認されました。今もこのウイルスは、変異を繰り返しながら「A型香港型」として世界で流行しています。

